

# 第3学年道徳科学習指導案

令和5年 6月23日(金) 5校時

1組31人指導者 教諭 川瀬 文子

- 1 主題名** みんなが楽しく C-12) 公正, 公平, 社会正義  
**教材名** 「ぼくのボールだ」 【小学道徳 生きる力3】(日本文教出版)

## 2 主題について

### (1) 価値及び指導について

本主題は、「学習指導要領解説特別の教科道徳」の内容項目C-12)「公正, 公平, 社会主義」の「誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接すること」に基づくものである。これは, 低学年の内容項目C-11)「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること」からつながったもので, 高学年の内容項目C-13)「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく, 公正, 公平な態度で接し, 正義の実現に努めること」へと発展するものである。また, 中学校の内容項目C-11)「正義と公正さを重んじ, 誰に対しても公平に接し, 差別や偏見のない社会の実現に努めること」へとつながっていく。

「公正, 公平」とは, 私心にとらわれずに, 誰に対しても分け隔てなく接し, 偏ったものの見方や考え方を避けるように努めることである。

「社会正義」とは, 人として, 行うべき道筋を社会に当てはめた考え方である。差別や偏見がなく, 正しいことを誰に対しても行うことができ正義が成り立ち, その正義が実践されることで, いじめのないよりよい集団や社会が形成されていく。しかしながら, 人間は自分と異なる感じ方や考え方などに偏った見方をしたり, 自分よりも弱い存在があることに優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっている。その弱さがある故に, 自分の好みで相手に対して不公平な態度で接してしまい, いじめの問題などもこのような人間の弱さが起因している場合であることも少なくない。

この期の児童は, 特定の仲間とよく遊ぶようになり, 自分の好みなどで相手に対する態度を変える場合がある。また, よくないということは分かっているにもかかわらず, 遊びのつもりの悪ふざけを相手を選んでやってしまったり, 同じ行為をしていても相手によって言葉掛けを変えたりするなど, 自分の言動が不公平であることに気付かないでいることも多い。

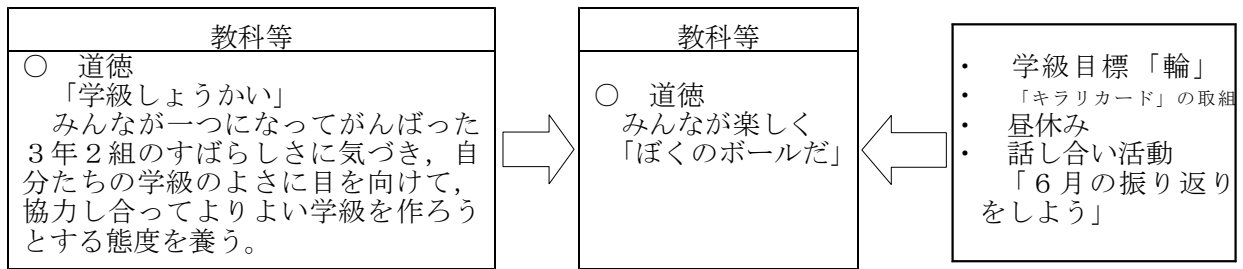
指導に当たっては, 仲間から公平に扱ってもらえない悲しさやつらさについて教材を通して自分事として考えさせることで, 相手のことや相手の気持ちを考える大切さに気付かせるだけでなく, 誰に対しても分け隔てをせず公正, 公平な態度で接し, 仲間を大切にしていけるよう関係構築を築こうとする心情や態度を育てていきたい。

### (2) 教材について

本教材は, いつもの休み時間に行うドッジボール遊びで, 勝つために自分たちがとったボールは, ドッジボールが得意なまさるとに回すことを当たり前にしてきたことから起きた出来事である。その日も, いつものように「ぼく」は勝つために, たかしが走って取りに行ったボールをたかしの手から取ってまさるとに回したところ, たかしが「ぼくのボールだ。」と言って泣き出してしまい, 他の友達も集まってきた。「ぼく」は, 「まちがったことをしたのかな。」と思い始めてきたという内容である。

中学年の児童は, 誰に対しても分け隔てなく接することの大切さを理解できるようになってきている。しかし, 自分の好き嫌いで仲間を優先したり, 相手によっては公平とはいえない態度で接してしまったりするということもある。自分たちが当たり前だと思ってしてきたことが, 他者から見ると実は不公平な態度であり, そのことが周囲に与える影響についても考えさせる必要がある。また, さらに人間関係や集団生活に支障をきたし, いじめにつながるということもあるという点も理解させる必要がある。勝ちたい気持ちからボールを人に渡すことについて「本当によいのか。」「みんなはそれで楽しいのか。」ということ教材を通して問題意識をもちながら自分事として考えさせたり, 議論させたりしていく。その上で, 誰に対しても分け隔てすることなく, 公正, 公平に接することの大切さを気付かせていくようにする。

(3) 全体計画（別葉）との関連



3 児童の実態・考察

(1) 道徳的価値との関連について（アンケート実施日：令和5年5月10日（水）調査人数31人）

|  |   |
|--|---|
| ① みんなが楽しく仲良く遊ぶことができるよう考えたり、気をつけたりしたことがありますか。<br>（公正、公平に接することができた経験）  | (人数)  |
| ある (23)  | ない (8)  |
| ② ある人に聞きます。その時にどんな気持ちになりましたか。<br>・ 明るい気持ち。<br>・ いい気持ち。<br>・ うれしい気持ち。<br>・ その他（みんなに楽しんでほしいなど）   |   |
| ③ 学級のよいところをもっと伸ばせるとしたら、どんなところを伸ばしたいですか<br>・ けんかをしたら素直にあやまる。<br>・ みんな仲良くする。<br>・ 悪口を言わない。仲間外れをしない。                                    |   |
| ④ みんなに同じように接することができなかった時はどんな時ですか。<br>・ みんなで遊ぶ時。（昼休み）<br>・ 体育の活動の時。   | ・ 先生がいない時。<br>・ グループを作る時。<br>・ 帰る時。<br>・ 「遊びに入れて。」と言われた時。                               |
| ⑤ なぜ、できなかったのですか。<br>・ たくさんいると楽しめないから。<br>・ 先生が見ていないから。<br>・ 仲が良い人とだけ遊びたかったから。  | ・ けんかになるから。<br>・ 相手が態度を変えるから。<br>・ 嫌いな人に言われたから。   |
| ⑥ みんなに同じように接すると、どんなよいことがありますか。<br>・ けんかが起こらないし、みんなが仲良くできる。<br>・ 友達から誘われたり、仲良くなれたりする。<br>・ みんながいい気持ちになる。<br>・ ほめられる。<br>・ うれしい気持ちになる。 | ・ みんなが明るく楽しく学校生活が送れるようになる。<br>・ 友達が増えて楽しくなる。<br>・ 喜んでくれる。                               |
| ⑦ みんなに同じように接するために、どんな気持ちや考えが大切ですか。<br>・ 相手の気持ちを考えてあげる。<br>・ 相手に優しくする。  | ・ みんなが喜んでほしい。<br>・ 人を選ぶんじゃなくて誰とでも仲良くする。<br>・ 人によって態度を変えると相手がどんな気持ちになるか考える。<br>・ 仲間に入れる。 |

①、②の結果から、学校生活や身近な生活場面の中でみんなと仲良く過ごしたいという思いをもち公正、公平に接することの大切さを理解している児童が多く、その時の気持ちとして楽しさや喜びを感じていることが分かる。また、既習内容「すばらしい学級をめざして」に関する②では、「学級のよさとしてさらに伸ばしていきたいこと」として、「誰とでも」「みんな一緒に」など輪を大切にして活動できるクラスを目指したいという思いや実践意欲の高まりが見られた。しかしその一方で、④、⑤から、自由遊びや児童主体で活動する場面では、「たくさんいると楽しめない」「仲の良い友達とだけ遊びたい」など自分本位な考えが見られ、日々実践することの難しさがあることが分かる。

⑥からは、道徳的価値の意義として「みんなが仲良くなる」「みんながいい気持ちになる」などと集団とのよりよい関わり方について理解している児童が多いことが分かる。また、心構えとしては、「相手の気持ちを考えたり、優しくしたりする」といった相手意識をもつことを大切にしていることが分かる。

これらのことから、好き嫌いで相手を選ぶなどの、自分本位な面が見られる一方で、みんなが喜んでくれるように声をかけて一緒に楽しくできるようにしたいなどの道徳的意義や心構えを大切にしている考え方ももち始めていることが分かる。そこで、本時では、本教材の登場人物の行動や発言を

通して不公平な態度が相手や周囲に与える影響について考えさせたい。また、誰に対しても公平に接し、相手の気持ちを考えることが仲間とのよりよい関係づくりにつながることに気付かせていきたい。

(2) 本校の研究主題との関連について (アンケート実施日：令和5年5月10日(水) 調査人数31人)

|  |   |
|--|---|
| ① 道徳の学習でどんな活動が好きですか。【複数選択】 (人数)  |   |
| ア 登場人物の気持ちを考える。(11)  | オ 自分のことをふりかえる。(5)   |
| イ 自分の考えを発表する。(9)   | カ タブレットを使う。(10)   |
| ウ 友達の考えを聞く。(12)  | キ その他   |
| エ グループでお互いの考えを伝え合う。(5)   |   |
| ② ①で選んだ理由を書きましょう。  |   |
| ア 登場人物の気持ちを考える。<br>・ 主人公の気持ちを想像して考えることが好き。<br>・ いろいろな気持ちが出てくる。                                       | エ グループでお互いの考えを伝え合う。<br>・ 話がしやすい。<br>・ いろいろと考えを聞ける。<br>・ 友達の考えを聞きたい。                     |
| イ 自分の考えを発表する。<br>・ 伝えるのが好き。<br>・ みんなが聞いてくれる。<br>・ 合っているか合っていないか知りたい。                                 | オ 自分のことをふりかえる。<br>・ 考えをまとめるのが楽しい。<br>・ 正しいことを今までできていたのか振り返りたい。                          |
| ウ 友達の考えを聞く。<br>・ 友達の考えが自分と同じか違うかが知りたい。<br>・ 友達の考えを聞いて考えやすい。<br>・ 自分が思いつかない考えがある。<br>・ 自分の考えをまとめられない。 | カ タブレットを使う。<br>・ いろいろと調べられる。<br>・ すぐに友達の考えを探せる。<br>・ 自分の思いを書きやすい。<br>・ いろいろな考えをたくさん知れる。 |
| ③ 友達の考えを聞いたり、自分の考えと比べてたりすることは好きですか。(人数)  |   |
| 好き (19)  | 嫌い (12)   |
| 【理由】<br>・ 何を考えているか分かる。<br>・ 面白い考えを聞ける。<br>・ 友達との違いを知りたい。<br>・ 友達の考えがいいなと思う。<br>・ 自分のためになる。           | 【理由】<br>・ 自分の考えをまとめるのが難しい。<br>・ 自分の考えと比べて、友達の方がよい考えだと落ち込む。                              |
| ④ 伝え合う学習活動で、好きな活動は何ですか。(自分の考えが伝えやすい活動は何ですか。) *【複数選択】 (人数)  |   |
| ア タブレットで考えを共有する。(12)   | ウ グループで伝え合う。(5)   |
| イ ペアで伝え合う。(12)   | エ 全体で発表し合う。(2)  |
| ⑤ ④で選んだ理由を書きましょう。  |   |
| ア タブレットで考えを共有する。<br>・ たくさんの友達の意見が分かる。<br>・ 書いたものを残せる。<br>・ たくさんの友達の意見を知りたい。<br>・ 話合いと同じことができる。       | ウ グループで伝え合う。<br>・ 伝えやすい。<br>・ いろいろと意見が聞ける。<br>・ 友達も考えがよく分かる。                            |
| イ ペアで伝え合う。<br>・ 話しやすい。 ・ 楽しい。<br>・ ペアで考えが合うとうれしい。<br>・ たくさん話せる。<br>・ 言葉の方がすぐに伝えられる。                  | エ 全体で発表し合う。<br>・ 楽しい。   |

①、③の結果から、道徳科の学習で自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることが好きな児童が多いことが分かる。また、友達と自分の考えとの違いはどこにあるのかということを知りたい児童も多いことから、タブレット端末を活用した交流活動の場を設けることは、多くの友達との考えを比較したり、共有したりする際に視覚的にも理解しやすく、効果的であると考えられる。

また④より、普段からさまざまな伝え合いの活動において、「話しやすさ」や「伝えやすさ」を求める児童が多いことが分かる。

これらのことから、まずは、ペアやグループでお互いの考えを確認し合ったり、自分の思いを伝えたりする場で、自信をもって表現活動を行うきっかけ作りを行う。さらに、多くの友達と考えを共有できるタブレット端末のよさだけでなく、個に応じた支援ができるようなワークシートを用いた交流活動をすることで、児童一人一人が主体的に交流し、多面的・多角的に考えられるような授業展開を工夫していく。

## 4 本時

### (1) ねらい

- 「ぼく」がドッジボールに勝つためにボールを回した行動は「間違っていたのだろうか」ということを考え、話し合うことを通して誰とでも公平に接しようとする実践意欲や態度を養う。  
【道徳科のねらい】
- 友達の考えを参考にしながら自分の考えを明確にし、伝えることができるようにする。  
【研究主題のねらい】

### (2) 本時の展開に当たって

#### ア 導入

まず、これまでに学習したことや教材の内容と日頃の学級での様子について関連した場面を大型テレビで重ねて提示することで、既得した道徳的価値を想起しながら、自己の課題に気付くことができるようにする。「みんなのことを考えて、いつでも誰にでも公平に接していきたい」という気持ちがありながらも、日常のいろいろな場面で、相手によって言動を変えてしまうという葛藤があることを認識し、自分なりの問題意識をもって学習に臨めるようにする。

#### イ 展開

教材を一読した後、「ぼく」がたかしのボールを取ったのは、自分が投げたいからではなく、チームが勝つためにとった行動であることに共感しながら問いかけることで、公正、公平にできない心の弱さは誰にでもあることに気付かせる。その際、「ぼく」がたかし君がとったボールをまさと君に回した時の言動を動作化することで、主人公について自我関与させながら判断や考えを明確にすることができるようにする。また、そうすることで次の『『ぼく』は間違っていると思うか、思わないか』の問いに対して児童が自分事として深く向き合えるようにする。その際、自分の考えをタブレット端末やカードに表し、ロイロノートの共有画面を活用して友達との学び合いを促すことで多面的・多角的に考えさせ、さらに気付いたことやよりよい考え方について伝え合うようにする。

#### ウ 終末

脇本タイムでは、自分の気持ちや考えがどのような変容が見られたか比較させた後に、導入時に提示した活動場면을再度提示することで、児童自身が成長を自覚しながら振り返ることができるようにする。また、身近な事例を複数提示し、理解した道徳的価値をどのように生かせるか場面を選択して振り返らせることで、個々の生活経験や興味・関心に応じた実践意欲を高めることへつなげられるようにする。さらに、教師の説話によって自分の考えを整理したり、一層深めたりし、本時の学びに余韻をもって終えることができるようにする。

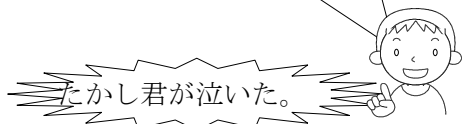
### (3) 実際

| 過程 | 主な学習活動  | 時間 | 指導上の留意点<br>※対話活動の充実を図る場面 ◇ICT活用 ☆評価   |
|----|---|----|---|
| 導入 | <p>1 これまでの経験を想起し、公正、公平、社会正義について、これから考えていきたい問題に気付く。</p> <p>○ みんなが、もっと学級で伸ばしたいことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなで楽しめる。</li> <li>・ 誰とでも仲良くできる。</li> </ul> <p>○ 「誰とでも」「みんな」ってできているかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いつも考えるのは難しい。</li> <li>・ 誰にでもは、難しい。</li> </ul> <p>○ 「みんな」のことを大切にするために必要なことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっと優しくするかな。</li> <li>・ 相手のことを考えたらいい。</li> </ul> <p>2 本時のめあてをもつ。</p> <p>みんなを大切にするためには、どんな気持ちや考えが大切だろうか。</p> | 8  | <p>○ これまでの経験や学習との関連性を意識させるために、よりよい学級を目指して自分たちが伸ばしたいことについて考えた前時までの学習や実践状況について画像で想起させたり、振り返らせたりする。<br/>【◇自分の考えをもつ】</p> <p>○ 本時の道徳的価値や課題についての自分なりの問いをもたせるために、「誰とでも」「みんな一緒に」ということの難しさに気付かせ「みんなを大切にするためには」という問いに対する最初の考えを端末に入力させる。<br/>【◇自分の考えをもつ】</p> |

3 教材「ぼくのボールだ」を一読し、主人公の気持ちを捉えながら、公平に接するための必要な考えについて話し合う。  
 (1) チームがたかし君のボールをまさと君に回した「ぼく」の気持ちを考える。

○ どんな気持ちで「ぼく」は、たかし君がとったボールをまさと君に回したのだろうか。

- ・ みんなでまさと君にボールを回そう。
- ・ 試合に負けたらダメだから。
- ・ まさと君が投げた方がチームが勝てる。
- ・ まさと君にパスするものだから。



(2) 「ぼく」のとった行動が間違っているかいないかについて考えを交流する。

◎ 「ぼく」の行動をどう思いますか。まちがったことをしていると思いますか。

【まちがっている】

- ・ 負けるからと言って、投げる人を変えるのはだめ。
- ・ たかし君は楽しくない。

【まちがっていない】

- ・ 自分で投げたわけではない。
- ・ みんなも勝てば喜ぶはず。



\*対話活動のポイント

- ・ いいなと思う考え
- ・ 新しく見つけた考え
- ・ まねしたいと思う考え

- ・ みんなが楽しくないといけない。
- ・ それぞれのことを考えることが大切だな。

(3) 公平に接することのよさについて考える。

○ 「ぼくたちは、まさとくんが外野に出た時は、まさとくんにボールを回している。」とあるけれど、ほかのみんなは、楽しめていることになるのかな。

- ・ みんなが楽しめるルールも必要だ。
- ・ 本当は、他にも自分が投げたい人がいて楽しめていないかも。

4 「公平、公平、社会正義」に対して大切な気持ちや考えについて本時で考えたことを振り返る。

- ・ 自分も友達の気持ちも大切にすることが大切。
- ・ みんなが楽しくなるようにしようと考えることが大切。

7

○ 教材の内容を主人公の気持ちに寄り添いながら理解できるようにするために、一読後に「ぼく」「まさと」「たけし」の3人の関係性や普段の学級の雰囲気、ボールを取った際のやりとりについて挿絵や吹き出しを使いながら板書する。

○ 中心発問である『「ぼく」はまちがったことをしているか、いないか』により深く自分事として向き合えるようにするために、「サンキュー。」と言って、すぐに手を出してまさと君にパスをした場面を動作化して考える。

○ 「ぼく」がたかし君からボールを取ったのは、自分が投げたいからではなく、チームが勝つためにとった行動であることにも気付かせるために、それぞれの判断や考えを交流し合うようにする。

○ 自分の考えを明確にした上で理由を考えさせるために、「まちがっている」(赤帽子)、「まちがっていない」(白帽子)、「迷う」(帽子なし)で、個々の児童が自分の考えを示すようにする。

○ 「ぼく」が自問していることについて多面的・多角的に考えられるようにするために、友達のを考えを端末で確認したり、友達と意見交換したりして多くの考えに触れさせる。

【◇自分の考えをもつ・他者の考えを知る】

※対話活動の流れ

- ①帽子の色で考えを視覚的に提示する。
- ②自分の考えに対する理由を端末で送る。(ワークシートに記述する。)
- ③お互いの考えを聞いたり、確かめたりする。
- ④全体でそれぞれの考えを共有する。

○ 自分の考えに対する理由を表現することが苦手な児童に対しては、端末上の友達の考えを参考にして考えさせる。

※ 公平に接することの道徳的価値や意義に気付かせるために、「まさと君が外野の時に、いつもみんなでまさと君にボールを回すことは、みんなが楽しめていることになるのか。」と問いかけて、交流させることで、自分なりの問いに対して納得する考えを見い出せるようにする。

※ 学習を通して自己の変容や成長を自覚できるようにするために、導入での自分の考えと比較させながら、新たに気付いた考えはないか問いかけ、全体でも確かめる。


【◇自分の考えをもつ・他者の考えを知る】

☆ 相手によって態度を変えないことの大切さを感じ、そのために必要なことについて考えを深めることができたか。

【ノート・端末】

10

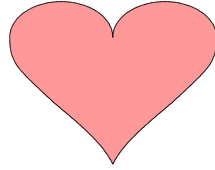
10

|    |  |    |   |
|----|--|----|---|
| 終末 | <p>5 本時の学びを振り返り、これからの生活に生かしたいことを記述し、発表し合う。<br/>〔協本タイム〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなが楽しめるように考えながら活動したい。</li> <li>・ 相手が悲しむから、どの友達にも同じ様に声をかけたい。</li> <li>・ ひとりぼっちを作らないようにしたい。</li> </ul> </div>  <p>6 公平に接することについての説話を聞く。</p> | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの自分を振り返る際に、理解した道徳的価値をどのように生かせるか具体的場面において考えることができるようにするために、グループでの話し合い活動や昼休みの遊び場面などを身近な事例として提示した後にノートに記入させ実践意欲を高めていく。</li> <li>○ 公平に接することが、人間関係や集団生活をよりよいものにしていくということが伝わるようにするために、「キラリカード」の取組を称賛し、余韻をもって終わることができるようにする。</li> </ul> |
|----|--|----|---|

(4) 評価


- 誰とでも公平に接しようとするこよさに気づき、実践意欲をもつことができたか。
- 友だちの考えを参考にしながら自分の考えを明確にし、伝えることができたか。

5 板書計画



みんなが楽しめるルール、友だちの気持ち  
・ 話を聞く、・かなしくなることをしない  
・ 自分がされていやなことはしない。

みんな




たいせつなかんがえ

挿絵


ほかのみんなは楽しめている？  
みんな大切にされている？

ましがっている



挿絵  
ぼく

昼休みの  
ドッジボール



ましがっている

- ・ たかしくんの気持ちを聞いていない。
- ・ 上げるのをかえるのは、かわいそう。
- ・ たかしくんは、楽しくない。

たかしくんがなかった

「やめてよ。ぼくのボールだ。」

挿絵  
たかし

ましがっている



- ・ 自分で下げたわけではない。
- ・ みんなもかてばよろこぶ。
- ・ まさとくんにわたすのが当たり前だ。

しりょう名「ぼくのボールだ」

3年生のクラスでのぼしたいこと

- ・ だれとでもなかよくする。
- ・ みんなでなかよくあそぶ。

じぶん


<


みんな

けんかになる。  
たかさんいると、楽しめないからいや。  
なががいい人とあそびたい。

みんなが明るくていい気持ちにりたい。  
みんな楽しんでよろこびたい。  
友だちをきずつけないようにしたい。